

特集

エキスパートの内視鏡手術 —コツとピットフォールI

企画者のことば

堤 治*

日進月歩の医学の世界において近年の目覚ましい進歩といえば、内視鏡手術の発展を挙げることができる。婦人科領域においても、1990年代半ばから腹腔鏡、子宮鏡、卵管鏡と内視鏡手術の応用が進み、ほとんどすべての良性疾患の手術療法は開腹を回避することが可能になった。導入期を過ぎ、今やより安全で安心な手術として広く普及し定着しつつある。医学生や初期研修医にとって内視鏡手術は産婦人科のサブスペシャルティーの魅力の1つであり、産科婦人科医の必修技術と認識される日も近いと思われる。

本特集は、日常臨床で実施される主要な内視鏡手術を網羅しており、初心者にとっての入門書として役立つが、主な狙いは執筆エキスパート諸氏の手術手技の実際をお示しいただき、そのコツとピットフォールを開陳願うものである。技術認定医あるいはそれを目指す方々のスキルアップ書として役立つことを目標として企画した。

今号では主に子宮に対する内視鏡手術を取り上げた。女性が活躍、輝く社会ではライフスタイルも変化し、最も頻度の高い子宮筋腫治療の在り方も、従来の開腹による子宮全摘から低侵襲性と妊娠性温存がより重視され、難度の高い手術も内視鏡を用いて治療することが求められる。多くの経験を持つエキスパートの技が注目される。

またわが国においては、悪性腫瘍の腹腔鏡下手術は、欧米はもちろん、アジア近隣諸国に比べても、一部のエキスパートを除いてはやや遅れをとっていたと言わざるをえない。その1つの要因は保険収載の遅れにあったと思われるが、来月(2018年4月)より子宮悪性腫瘍に対する手術術式が拡大することは、適用拡大への大きな後押しになると期待できる。本企画の子宮頸癌、子宮体癌の項はまさにタイムリーであり、今後国内の子宮癌の腹腔鏡下手術の安全な普及の道標の1つになれば幸いである。

*O. Tsutsumi 医療法人順和会山王病院(院長)